

『時事直言』 No.1794 2026年3月30日 国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019) [Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

幸運の高市早苗にまたもやチャンス到来！

多分今週か来週になると思うが、高市が再び「世界の高市」になれるチャンスがやってくる。

先の3月19日の日米首脳会談で、トランプがホルムズ海峡の話に移ろうとした時、高市は遮って「ホルムズ海峡について私に提案がある」と言ったが、その後も20日の晩餐会でも高市から提案についての話は無かった。

トランプ・高市の秘密事項なのかも知れない。

しかしホルムズ海峡問題に関し、(公表されていない以上)高市に秘策があることは確かである。

茂木外相とアラグチ外相(イラン)の電話会談はトランプ・高市首脳会談(3月19-20日)前の3月9日と17日に行われた。

高市帰国後の23日アラグチ外相から、「前回の茂木外相との電話協議で議題になったように、日本船舶のホルムズ海峡通過を支援する用意がある」との発表があった。

茂木外相は、トランプがホルムズ海峡を開放しないとカーグ島の石油施設を攻撃するぞとイランに脅しをかけている最中に日本船舶が同海峡を先駆けして航行したのではトランプの面汚しになるのでとぼけたが、頭隠して尻隠さずである。

トランプは、佐世保基地からの強襲揚陸艦(トリポリ)、沖縄からの第31海兵遠征部隊や本国からの第11海兵遠征部隊、さらに陸軍第82空挺師団も投入、イランの原油9割の出荷を担うカーグ島上陸を目指している。

「ホルムズ海峡は開かれている、ただし我々に敵対し、攻撃する国の船舶は封鎖する」と述べ、通過料を課すことになることを公式発表している。

トランプのホルムズ海峡開放の要求に対する「開放している」と言うイランの回答である。

高市が先駆けでトランプを困らせず、「あなたが求めるホルムズ海峡開放を私が適えましょう」と「提案」すればいいのではないか。

トリポリや海兵遠征部隊の本拠地である日本に安全航行を保証し、さらに高市の顔を立てて通行料が撤廃されれば、「世界は高市に続け」となり、またもや高市の名が世界に轟き、一方イランはトランプ(鬼)の首を取ったことになる。

ホルムズ海峡が自由航行になればイラン戦争は(やがてトランプは引くだらうから)イスラエルとイランの内政問題になり、どちらが勝つか、負けるか神のみぞ知る。

イラン戦争は株価にも経済にも関係なくなり、もっと大事なことで左右されることになる。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。